

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	静岡県裾野市			代表者名	村田 悠
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	情報システム課	連絡先電話番号	055-995-1805
担当者役職	主席主査	担当者氏名	勝又優斗	連絡先E-mail	
住所	410-1192 静岡県裾野市佐野1059				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名	行政デジタル化研修		
概要	通年で実施している行政デジタル化研修の中で、デジタル化推進のためのマインド・アクションの変革についてICT担当職員(各課配置)、所属長を対象にご講演いただく。				
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年7月12日	支援・助言&講演(実地)	9時30分	17時15分	60
2-2. 派遣場所	会場名	裾野市役所	最寄駅	JR裾野駅	
	所在地	裾野市佐野1059	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	佐藤 泰格
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	デジタル化にとらわれず、自組織の取り組みをBPRの観点から解説頂いた。身近な事例や失敗談、苦労話を交えながら私たち市職員の目線にあわせて話を頂いたため、理解度が非常に高かった。特に、徹底した市民目線でのサービスデザインとそれに矛盾しない職員の業務効率や業務負荷の軽減は参考になるだけでなく、すぐに着手できる改善視点の気づきとなった。参加者からの評価も非常に高く、75%の職員が10段階で8以上の評価としていた。コメントにも、自席に戻ってすぐに手を動かしたくなる研修だと感じた。BPRに取り組む事に対してのマインドが変わった。という評価が多く、即効性があり意識改革に非常に良い効果があったと共に、現場とデジタル部門の融和にも言及頂き、働き方も変わってきたのではないかとと思う。
アドバイザーへの要望事項	今後も継続的な情報提供、フォローを頂けると大変助かります。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	80人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	80	0	0	0
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	※↑「4-2.支援を受けるにあたって～実勢に支援を」は「実際に支援を」で良いでしょうか？今回は、市職員がBPR、DXの取り組みを通じて、住民の対応や住民に幸せをもたらすためのリソースやアイデアを生み出すため実施する、業務改革研修の一環である。この研修で終わらず、継続的なフォローアップやマインド情勢が必要であるため、組織として引っ張っていくリーダーを育成していく事が必要で、課題である。				
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	市職員自らが、市民目線・サービスデザイン目線で事業を行い、市の目指す姿である「日本一市民目線の市役所」を実現すること。そのためにはBPR・DXのマインド醸成、業務への落とし込み、実施とふり回りのサイクルを自らが回していける組織となる必要がある。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・BPRを進めるうえでの市民目線、サービスデザインの考え方と業務への取入れ方法 ・時代が変わっていくことが業務に反映できているか、フローをあわせるための視点 ・都城市での取り組み、失敗談、成功談、そのポイント、どこを見て考えていくか ・チャレンジする事、失敗を活かすこと、見なおすことの実践 ・デジタル部門への相談方法、相談内容。どのように実現を目指していくか 	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザインの考え方をもった手続きフローの再構築。オンライン化したときの表現、手続きの流れから広報の打ち方まで網羅的な指導を頂き、すぐに修正した。住民目線で市のサービスがどう見えているか。WEBページなど職員の目線で構築されており、お互いの目線が合っていないと伝わらない。 ・支援当日、広報紙の記事について具体的な支援を頂き、大幅に内容を差し替えた。必要な情報の並び方、見せ方、表現方法や語句の選び方などを指示頂いた。 	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙記事 	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBページでの表現やページの構成、表現の変更。網羅的に見直す必要がある。 	
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>同じ職員の見解で解説頂いたことで非常に理解度が高く、前向きな評価であった。低評価がなく、満足度が極めて高い結果であった。(EXCELで結果を添付します)</p>	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	<p>研修計画を定めている。予算化は行わないが、継続的に内部・外部講師を招き、マインドの醸成とアクションの実施、評価のサイクルが回せるように勢いづけていく。</p>	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	<p>サービスデザインを徹底的に活用した「日本一市民目線の市役所」を実現すること。市民目線とはサービスデザインに基づいたものであること。市の組織全体としてのマインド改革を実践。</p>	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

